

■主旨

今重要なことはSDGsを推進することです。最優先は生物の生存に関わるNO13「気候変動に具体的な対策を」です。林業では「森の循環」が一番ですが、外材に押されて川上と川下が上手く機能していません。今回は改善する良い機会です。地域住民や管轄する3地域の力を結集して、「後から来る人」のために未来への道を拓くのがミッションです。

■周辺地域との共生

地域との信頼には思いやりが大切です。それには樹木伐採（害）や、ゴミステーションの移設（形）など、丁寧に説明して協力を仰ぎます。

<配置計画>

① 不整形な敷地で優先したのは、交流スペースとしての道路側に緩衝緑地の確保・駐車スペースの分散と研修室の利便性の確保・道路と敷地、敷地と建物の段差によるスロープ（勾配1/12）の確保・「建物は南側の境界に平行とします。奥行きは各室の自然採光と要求面積から算出し、長さは西側の駐車場から、東側の一番狭い境界からの離れを南北とも約2間にしたところまで。その結果建物の大きさは約500㎡でした。

② イベント広場や建物の周りに交流縁側を設け、空いたスペースは家庭菜園等に活用し、地域の参加と建物の役割の見える化を図ります。

③ 建物の威圧感を減らすために、緩勾配の切妻で高さを抑えます。

④ 中央の採光と換気と排煙を兼ねた窓からは、地域との精神的交流が図れます。

⑤ 緩衝緑地の中に交流の場としてベンチやテラスを設け、緑地を果樹園＝ブルーベリー等にするとうちに親近感が生まれます。

⑥ 指導員の下で、住民と病院の協働で、隣接する病院の土地の緑化や林の整備をすれば、新たなオープンファームが生まれ、地域交流のPRになります。

<平面計画>

① 出入口は職員と客用に分けて動き易い動線を確保。客用エントランスは外部から見えるトップライトで明るくし、情報・交流スペースと一体化します。

情報・交流スペーススケッチ



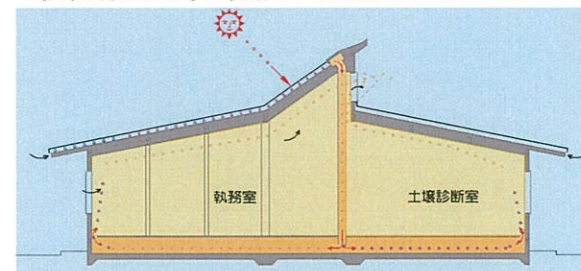
② 休日の貸出しは執務室と建具で区切り、専用の湯沸室を設けて使い易くします。

■脱酸素社会の木造化・木質化の実現

キーワード：「健康」と「人間力の回復」
① 「人間→建物→地域→地球の健康」に繋がる建物を目指します。

【人間の健康】：冬の頭寒足熱とコロナ対策として「太陽熱床暖」を採用します。外部の新鮮空気を太陽で温めて床下に送ると、床暖と床下乾燥と室内の強制換気になります。また、夏には自然換気もできます。

地熱の冷暖房を併用すると年中快適です。内装は抗菌作用と調湿機能がある杉と自然素材です。



太陽熱床暖・換気仕組図

【建物の健康】：古民家の伝統構法にすると、長寿命化と、最後はゴミでなくリユース（構造材と内装材）ができCO2を長く固定します。それには床下の「乾燥とメンテナンス用の高さ」が必要です。

【地域の健康】：地産地消で森の循環を促すとCO2を吸収し、地域にお金が回ります。

【地球の健康】以上の仕組みが答えです。

② 人間力の回復：現在、農業も林業も建築も余りにも化石燃料に頼り過ぎていないか。伝統工法の建物は大工さんの匠の「手の温もり」と、身近な「杉の温もり」で包みます。

タイトル 「ふくしまが好き、太陽の下に農と林で未来を拓く」



外観イメージ図

■次世代の農業普及所としての実効性確保

① 研修室は20名～80名の4タイプ（小2、中1、大1：）。今後のリモートによるダイナミックな会議をするために、壁面スクリーンを多く設けます。

② 研修室の床を土間（土足）などに可変出来れば、利用頻度も上がります。

③ 相談室は2箇所設けます。執務室の通路の上部に採光と換気と排煙を兼ねた窓を付けると、打合せコーナーに早変わりします。

④ 執務室の書庫は2箇所に分けて日常の書類収納に利用。長期保存物は書庫や湯沸や更衣室の上のロフトに収納。スッキリした温もりのある空間で仕事をして欲しい。

⑤ 床面積が500㎡でも十分普及所の機能を果たせます。



配置平面計画図

【伝統構法の説明】
込栓で土台と柱・梁を繋ぎます。地震時には一般構法の金物（剛）に対して込栓は柔（免振構造）となり、これが古民家の長寿命に繋がるのです。

伝統構法と木造軸組アクソメ図

■木材の条件

・乾燥：伝統構法は自然乾燥ですが、今までの経験から、高温乾燥（約120℃）では無理で、低温乾燥（約45℃）なら大丈夫です。3地域なら供給ができます。

・構造計算とJAS規格：法的には床面積が500㎡を超えると応力度計算と、JAS規格が要求されますが、3地域にはありません。JAS規格工場は主に高温乾燥です。500㎡以下でも応力度計算で安全を確保します。

■省エネルギー化・再生可能エネルギー活用

再生可能エネルギーの、太陽熱、地熱、雨水をフルに利用して省エネルギー化を図ります。

【NearlyZEB】：概算では建物に必要な容量は約10KWになるので、ソーラーパネルは約50枚で済み、蓄電池を備えてZEBの75%を確保します。快適な避難所にもなります。

【雨水】：夏の打ち水や果樹等への水やりに、周囲に雨水タンクを4か所配置します。

■コストの考え方

今迄はインシャルコストとランニングコストだけでした。これからは温暖化対策として最終処分費を加味したライフサイクルコスト（LCC）までも考慮した計画が必要です。

これが今回の提案です。

■担い手が儲かり、誇れ、貢献できる福の島をゴールにします！

